

これだけはぜひ守りましょう! ★

安全運転のために

★腰ベルトは

いっぱいひきだして腰骨の位置にピッタリと装着しましょう。



腹の位置にかけると万一のとき身体にくいこみ危険です。

★ヘッド・レストの位置は

ヘッド・レストとの間にはぎりこぶしの幅以上あけないようにしましょう。

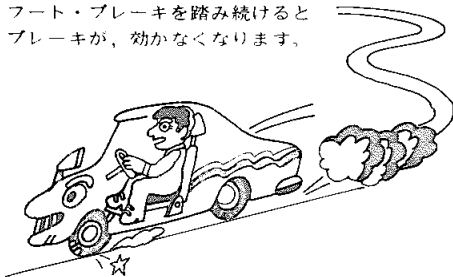


ヘッド・レストとの間隔が多いと万一のとき危険防止に役立ちません。

★長い坂道を下る場合は

エンジン・ブレーキを活用しましょう。

フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキが、効かなくなります。

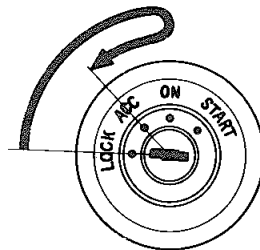


走行中エンジン・スイッチをLOCKの位置にしないでください。ハンドルがロックされているとハンドルがきれなくなり危険です。

★エンジンを停止して移動する場合は

(けん引される場合など)

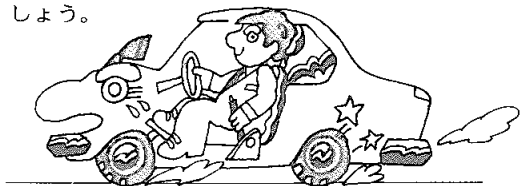
エンジン・スイッチは一度ONにしてからACCの位置にしましょう。



LOCKの位置にして万一ハンドルがロックされているとハンドルがきれなくなり危険です。

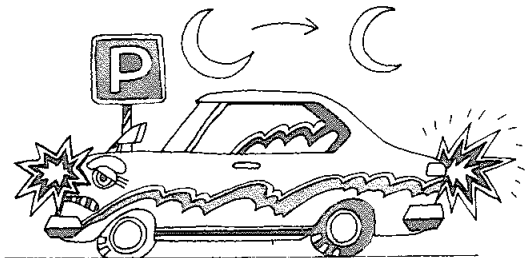
故障しないために

★パーキング・ブレーキ・レバーは走行する前に必ず確実にもとの位置までもどし、インジケーター・ランプが消灯するのを確かめましょう。



ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキが効かなくなります。

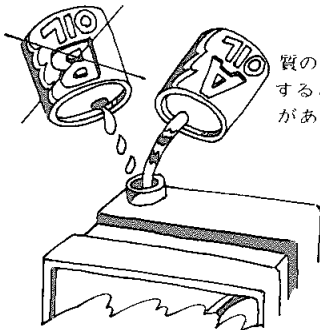
★エンジンを停止してランプ類を使用するときはバッテリーが完全充電状態でもエンジンが停止していると消耗がはげしいものです。パーキング・ランプ、ハザード・ウォーニング・ランプなどは、必要なとき以外は使わないようにしましょう。



長時間使用はバッテリーあがりの原因になります。

★オイルの補給は

同品質かまたはそれ以上のオイルを使用しましょう。

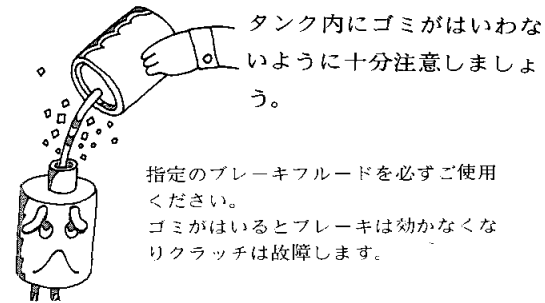


質の異なったオイルを補給すると性能が低下する恐れがあります。

★寒冷時になる前にラジエーターには (不凍液の注入の項目参照)

気温に応じた適当な濃度の不凍液またはロングライフ・クーラントを入れましょう。ただし、ロングライフ・クーラント注入済みの車両は入れ替える必要はありません。

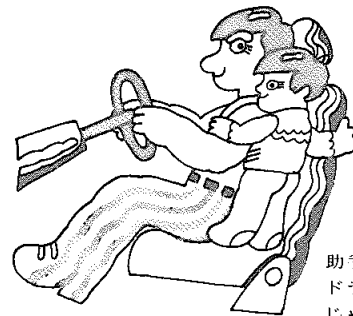
★ブレーキフルードを補給するときは



タンク内にゴミがはいわないように十分注意しましょう。
指定のブレーキフルードを必ずご使用ください。
ゴミがはいるとブレーキは効かなくなりクラッチは故障します。

お子様を乗せるとき

★なるべく保護者と一緒にリヤ・シートにすわらせましょう。
助手席ではドライバーのじゃまになり大変危険です。



助手席ではドライバーのじゃまになります。

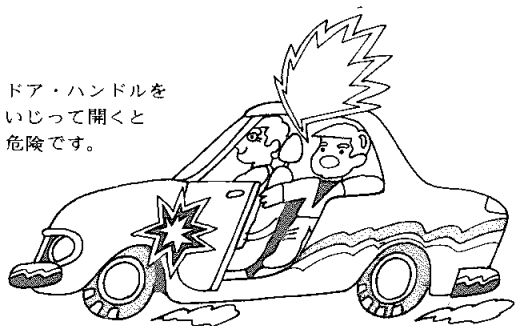
★必ずリヤ・シートにすわらせましょう。

万一のとき放り出される心配があります。



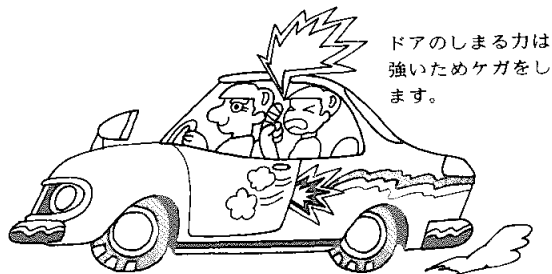
★ドア・ロックは確実にしましょう。

ドア・ハンドルをいじって開くと危険です。



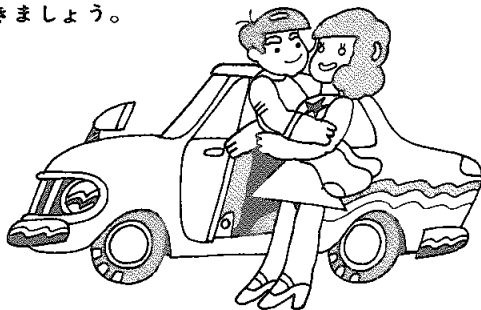
★ドアの開閉で手をはさまないようにしましょう。

必ずおとながドアの開閉をしましょう。



ドアのしめる力は強いためケガをします。

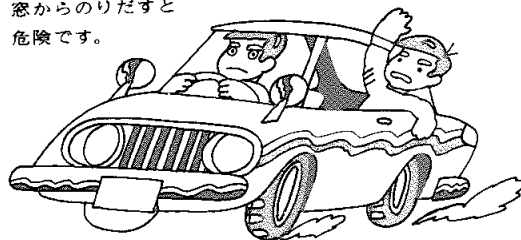
★車から離れるときは、こどもと一緒に連れてゆきましょう。



思いがけない事故が起きる場合があります。

★窓の開閉はおとなの手でしましょう。

窓からのりだすと危険です。

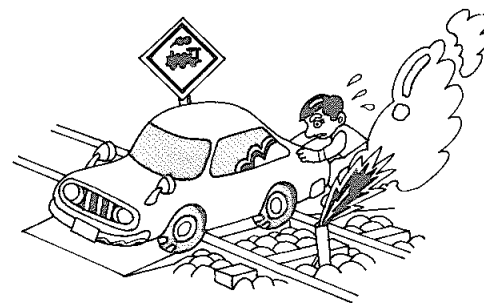


緊急処置

★踏切りなどで始動できなくなったときは、スターターで抜け出しましょう。

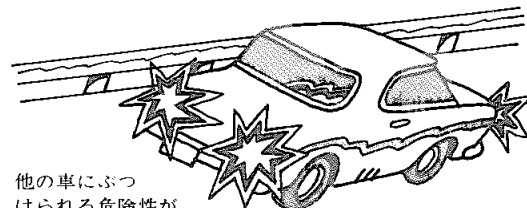
(オートマチック・トランスミッション車は除く)
それでもだめなときは踏切に装備されている非常ベルを押すか保安炎筒で合図してください。

大きな事故を起す危険性があります。



★万一、故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させます。



他の車にぶつけられる危険性があります。

★遠出して万一故障し、なおせないときは整備手帳のサービス網をご覧になって、あなたの車の最寄りの取扱い販売店へ連絡しましょう。

